

PRESS RELEASE
報道関係各位

2025年12月10日
株式会社セゾンテクノロジー

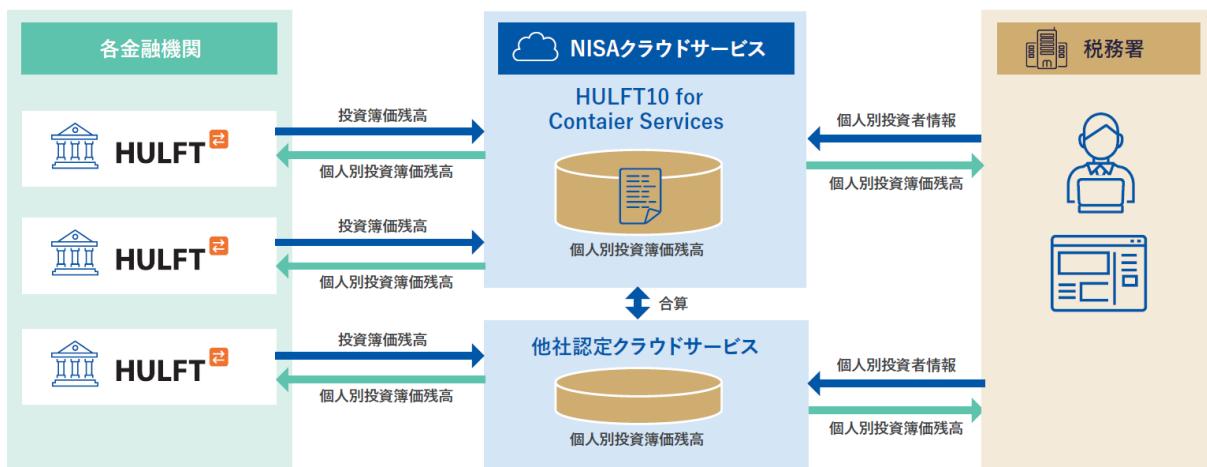
Workthy、税務署・金融機関との新NISA簿価残高情報等のファイル連携に「HULFT10 for Container Services」を採用

～モダンアーキテクチャにより20分で環境構築、

約870万口座の情報を安全に連携～

株式会社セゾンテクノロジー（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：葉山 誠、以下セゾンテクノロジー）は、株式会社 Workthy（本社：福岡県福岡市、代表取締役社長：井本 憲史、以下 Workthy）の金融機関向け国税庁認定クラウドサービス「NISA クラウドサービス」の、税務署・金融機関とのファイル連携に、「HULFT10 for Container Services」が採用されたことを発表します。

2026年1月から金融機関によるNISAクラウドに対するNISA口座の買付（簿価）残高の提供が開始され、今後、約870万^{*1}の新NISA簿価残高情報の安全なやり取りを、「HULFT10 for Container Services」が担う見込みです。



「HULFT10 for Container Services」を活用した「NISA クラウドサービス」の構成図

背景

Workthyは、専門性の高いエンジニアリングを強みとして2006年に設立、業務や生活を便利にするシステムやアプリケーション、インターフェースを利用者視点から快適に活用できるサービスを提供しており、金融機関向けに提供する「民間送達e-Tax連携サービス」をはじめとした民間企業向けのサービスから、行政機関専用や個人向けなど、多岐にわたるサービスを通じて新たな付加価値を顧客に提供しています。

そのような中、Workthy は金融機関が国税庁に対して NISA 口座に係る買付（簿価）残高を提供するための国税庁認定クラウドサービスとなる「NISA クラウドサービス」も提供しています。新 NISA では、生涯投資枠となる非課税保有限度額が決まっており、2026 年 1 月より各金融機関から国税庁に対して買付（簿価）残高の情報を提供する必要があります。そのため、金融機関からクラウド経由で国税庁に NISA 口座に係る買付（簿価）残高を安全に提供できるよう開発されたのが「NISA クラウドサービス」です。

「NISA クラウドサービス」では、SFTP プロトコルを用いた複数の接続形態で各金融機関に対応できる環境を事前に整備していましたが、サービスの利用を検討した多くの金融機関から「HULFT」を使ったファイル連携のニーズが寄せられました。そこで、「NISA クラウドサービス」のファイル連携手段の 1 つとして「HULFT」も選択できるよう検討を開始しました。

「HULFT10 for Container Services」採用の理由

ファイル連携に「HULFT」を検討する中で、Amazon Web Services 上のコンテナオーケストレーションサービスで稼働可能な「HULFT10 for Container Services」が、自社のクラウドサービスや開発環境とも親和性が高く、「NISA クラウドサービス」のデータ保管先として利用を想定していたオブジェクトストレージ Amazon S3 へ直接ファイルを連携することができる点も評価し、「HULFT10 for Container Services」の導入を決定しました。

「HULFT10 for Container Services」を採用した理由として、Workthy は次の点をあげています。

- 金融機関における豊富な稼働実績と、「HULFT」利用企業からの信頼性
- テンプレートによりわずか 20 分でファイル連携の環境構築、フルマネージドのように利用が可能
- コンテナオーケストレーションの利便性とオブジェクトストレージとの容易なファイル連携

導入の効果

2026 年 1 月から金融機関による国税庁への買付（簿価）残高の提供開始に向け、現在は金融機関において同社が提供する「NISA クラウドサービス」との連動テストが順次行われており、年 1 回のデータ提出と毎月の口座残高変更情報など、年間を通して「HULFT10 for Container Services」を経由したファイル連携が行われる予定です。

2025 年 3 月末時点で、2,600 万超ある新 NISA 口座を管理する約 800 の金融機関のうち、半数弱で Workthy が提供する「NISA クラウドサービス」が採用される予定となっており、新 NISA 口座全体の 3 分の 1 である約 870 万前後の新 NISA 口座の買付（簿価）残高等の情報が「HULFT」を使ったファイル連携になる見込みです。

Workthy は「HULFT10 for Container Services」の利用において、起動タイプとしてサーバーレスでコンテナを実行できる Fargate を選択することで、フルマネージドサービスのように利用できることも高く評価しています。また、「HULFT」自体が安定稼働しており、金融機関からも信頼が得られている「HULFT」

を使うことで、本来調整が必要なファイル連携を行うシステム間の調整もスムーズで、SFTP プロトコルの利用に比べてサービス実装までのスピードが速い点もメリットであるとしています。

Workthy は行政分野や金融分野に対する各種サービスも提供しており、今後は異なるプロジェクトにおいても「HULFT」の活用を進めていく予定です。

なお、「HULFT10 for Container Services」を活用した Workthy の導入事例は次の URL をご参照ください。

- モダンなアーキテクチャで約 870 万の口座情報を安全に連携

フルマネージドサービスのように活用できる「HULFT10 for Container Services」

<https://www.hulft.com/casestudies/workthy>

*1 新 NISA 口座数は 2025 年 3 月末時点で 2,600 万口座、口座を管理する金融機関はおよそ 800 行で、その内の約半数（約 400 行）が Workthy の「NISA クラウドサービス」を利用しファイル連携部分に HULFT を選択しているのは約 3 分の 2 であることから約 870 万口座と推定

「HULFT10 for Container Services」について

「HULFT10 for Container Services」は、ファイル連携ミドルウェア「HULFT」の 10 年ぶりのメジャーバージョンアップ版である「HULFT10」のラインアップの一つであり、Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) などのコンテナオーケストレーションサービスで利用できます。 AWS Marketplace から購入およびデプロイ、管理ができ、ファイル転送処理の前後で Web API が発行できるなど、クラウドのベストプラクティスに準拠した機能を備えています。

セゾンテクノロジーについて

データインテグレーターであるセゾンテクノロジーは、「世界中のデータをつなぎ、誰もがデータを活用できる社会を作る」をミッションに、安全・安心の基盤となるデータ連携製品や IT サービスをグローバルに展開し、金融や流通業をはじめとする多種多様な業種向けのシステム開発・運用を提供しています。長年にわたり環境の変化に即応してきた強みを活かし、現在はクラウド型データ連携プラットフォーム (iPaaS) 「HULFT Square」の拡大に注力するほか、未来を切り拓くテクノロジーの実装に向けた取り組みを強化しています。

- セゾンテクノロジー：<https://www.saison-technology.com/>
- HULFT 製品サイト：<https://www.hulft.com/>

商標関連

- 「HULFT」は、セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。

報道関係者様からのお問い合わせ先

株式会社セゾンテクノロジー

広報担当：山下

PR@saison-technology.com (広報代表)